

平成30年3月19日



緑の風



学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」

スマイル学年卒業式、感動的で心温まる素敵なものでした！
お褒めの言葉をたくさんいただきました（3/15（火））

【3月13日（火）PTA卒業祝い品贈呈式、卒業証書授与式予行】

本校では、毎年、PTAから卒業生に対し、卒業祝品を贈呈していただいております。祝品は「英和辞典」と「卒業証書ホルダー」の二つです。

卒業式予行の直前の時間に、細井PTA会長さんから、6年代表の〇〇〇〇さんに授与していただきました。細井PTA会長さんからは、「中学校では、分からない単語が出てきたら、この辞書を使って調べ、英語の学習に興味をもってほしいし、そのためには、ページが膨らんでケースに入らなくなるほど、この辞書を使ってほしい。」などの励ましのお言葉をいただきました。どうもありがとうございました。

【3月15日（木）スマイル学年卒業式】



午後の卒業式であることから、時間的にも精神的にも若干余裕をもちながら、午前中を過ごすことができました。天気は快晴。スマイル学年のみなさんのがんばりと、在校生の6年生に対する思いの表れでしょう。

保護者や来賓の皆様の入場も順調に進み、予定より5分程度早い卒業生の入場でした。

中学校の制服に袖を通した卒業生の姿は、新鮮であり、そして凛々しく、卒業という節目を迎え、中学校に旅立とうとする思いが、参加態度や歌声、呼びかけに表れてきていました。

6年生は、これまで、卒業式が小学校での最後の卒業であるという共通理解を図り、卒業式当日に100%の力が出せるよう、計画的に練習を積み重ねてきました。

呼びかけでは、一緒に遊んでくれた6年生のお兄さんやお姉さんが、感極まって涙する姿を見ていた在校生も、感情を素直に表し、涙を拭いている光景も、たくさん見かけましたし、私も感動して、何度もハンカチを使ってしまいました。

それでも在校生は、6年生にも負けにくいくらいの声量で、呼びかけのせりふを述べたり、元気に校歌を歌ったりするなど、6年生の思いを受け止め、心を通い合わせることができました。

よく、「卒業式は、互いにつくりあげるもの」と言われることがあります。それぞれが置かれた場所で、それぞれの責任を果たした結果が、感動となって表れたものと思っております。

門送りでは、5年生14人が、6年生に対し、エールを送り、旅立つスマイル学年一人一人の背中を押すメッセージを送ってくれました。

天気に感謝、6年生に感謝、そして在校生に感謝、ここまで支えてくださった保護者の皆様に感謝、地域に感謝、互いに支え、そして支えられながら生きていくことを、卒業式を通して実感しました。



式辞では、卒業生に対し、次のような言葉を贈りました。その一部を紹介します。

・・・(前略)

ところで、今年の大きな話題といえば、まずはピョンチャンオリンピックが挙げられます。みなさんも、テレビの前で、日本選手の活躍を応援したり、世界中のトップアスリートの素晴らしいパフォーマンスを見たりしながら、勇気と大きな感動を手にしたことなのでしょう。



大活躍した日本選手団は、金メダル4個、銀メダル5個、銅メダル4個、計13個のメダルを獲得するという過去最高の成績を収めることができました。

また、試合後のメダリストに対するインタビューでは、様々な選手が、心に残る感動的なコメントを残してくれましたが、特に二大会連続で金メダルを手にした男子フィギュアスケートの羽生結弦選手のインタビューの中で、私の心に残った二つの言葉がありました。この二つの言葉を、卒業生のみなさんに紹介するとともに、卒業に向けた贈る言葉といたします。

一つ目は、大きな怪我をし、オリンピックの出場が心配された頃の思いを尋ねれたときに羽生選手が話した「今できることに集中する」という言葉です。

実際に、羽生選手は、オリンピックの約3か月前、ある大会の直前練習で4回転ジャンプの着地に失敗し、転倒して大怪我をしてしまいました。それでも、オリンピックで金メダルを取りたいという夢の実現のために、今できることは氷の上で練習することではなく、スケート靴がはけなくても、イメージトレーニングをしたり、陸上で演技の基礎練習をしたりすることだと考え、集中したそうです。その結果、本番では、より演技の質が高まったと話していました。

この言葉からは、必ずオリンピックに出るんだという強い意志、そして、金メダルを取るんだという夢や希望を常にもち続け、その実現のために、今できることに集中して全力で取り組もうという意気込みが感じられます。

みなさんも、夢や希望を常にもち続け、その実現のために、今できることは何かを常に考え、目の前の課題に一生懸命に取り組もうとする姿勢をもち、何事にもチャレンジしてください。

二つ目の言葉は、金メダルを取った後のインタビューで羽生選手が話した「明けない夜はない」という言葉です。

夜は、暗くて人によっては怖いイメージがありますが、時間がたてば、必ず朝が訪れることから、辛いことや苦しいことがあっても、今できることに精一杯がんばっていれば、いつかはよい結果が出るんだよという意味が込められています。

羽生選手は、こんなにも強く前向きな考え方ができたからこそ、大きな怪我を克服して、2大会連続で金メダルがとれたんだなと思ったところです。

卒業生のみなさんも、中学校に進んでも目の前の課題に集中して取り組み、辛いことや苦しいことに出くわしたとしても「明けない夜はない」と物事を前向きに捉え、いつか訪れるであろう朝を待ちながら、努力を積み重ねてほしいものです。

また、辛いことがあってもあきらめずに続けていけば、きっといつかは結果が出るものと信じ、がんばってほしいものです。・・・(後略)